

北朝鮮軍事ニュース：ロシアの専門家から見た北朝鮮 ICBM

漢和防務評論 20171104(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

トランプ大統領関連ニュースが連日大々的に報道され、にわか評論家が連日テレビ出演、茶の間の話題になっているのは一面良いことだと思います。すぐ忘れる人たちですが。

今日は北朝鮮のミサイル開発がなぜ順調に行っているのか？KDR が取材したロシアの専門家の見解を紹介します。

現在ロシアとウクライナは犬猿の仲なので額面通りに受け取るのは要注意ですが、こういう見解もあることを紹介したいと思います。

平可夫モスクワ

ロシアのロケットの専門家は、北朝鮮の ICBM の外形から、特に今年初めて出現した固体式 3 段ロケットを次のように分析した。多くの専門家の結論は次のとおりである：これらの外形写真から我々が憂慮していたことが証明された：それは、ウクライナが SS-18 を含むソ連の ICBM の多くの極秘技術を明らかに漏洩させたことである。これらの秘密漏洩は、1990 年代中期及び後期、或いは現在も行われている可能性が極めて高い、と。専門家の談話の内容は以下の通りである：”北朝鮮の最新型（今年展示された）の ICBM の弾頭フェアリングを見ると、SS-18 にそっくりである。これは絶対に偶然ではない。我々は、ウクライナの YUZHNOYE 工場が 1990 年代から現在に至るまで巨大な財政危機に直面していたことを知っている”と。

”さらに次の段階で、北朝鮮は、自力で巡航ミサイルを開発する可能性が高いと我々は考えている。ウクライナは巡航ミサイルをイランと中国に密輸した前歴がある”。イランと北朝鮮は、ロシア製の KH-55 型巡航ミサイルを共同でコピー生産する可能性がある”と。

KDR：しかし最も重要な技術は弾頭の耐熱技術であり、これらの材料運用と開発には、大量の資金とハイテク複合材料が必要である。北朝鮮の技術者は完成できるであろうか？

ロシア専門家：ウクライナの YUZHNOYE は SS-18 の全ての”南方設計図”を保有している。彼らは自ら設計室を有し、ICBM 弾頭の耐熱材料を制作できる技術を有している。北朝鮮の中距離弾道ミサイルの耐熱材料は新技術ではない。1960 年代のソ連の技術で十分である。この材料は現在国際市場で購入可能であり、中国からも入手可能である。

” 2000 年以降、北朝鮮はスパイを何度もウクライナに派遣し、SS-18 の技術資料を収集した。これらのスパイはモスクワを経由しキエフに向かった。ロシアの対スパイ組織は直ちに関連情報をウクライナ国家安全局に通報した。ウクライナ国家安全局は北朝鮮スパイを逮捕したことがある。しかし現在、ロシアとウクライナは、この方面の協力関係を断絶しており、状況は再び収拾がつかなくなる可能性がある。

今回の取材で得た証言を総合すると、：ロシアは安全保障に関する地縁関係から、国家政策レベルで北朝鮮の ICBM 技術を支援することは有り得ない。しかもミサイル技術の管理は相当厳格に行われている。

しかし今のところロシアの専門家は次のように考えている：北朝鮮が展示した KWASONG-12 中距離弾道ミサイル、KN2017 (KDR 名称) ICBM は、ソ連の技術の色彩が濃い、と。

北朝鮮が今年発射した MRBM、ICBM が 1 回目で成功したことを、多くのミサイル技術者たちは不思議に思っている。通常であれば、最初のテスト、2 回目のテストの多くは失敗する。本物のミサイル設計者であれば、この段階の失敗を喜んで受け入れるはずだ。すなわち試験の初期段階で問題点の所在を発見できるからだ。最初から順調であるとむしろ不安になる。これは隠れた技術的問題が存在することを意味するからだ。

KDR：北朝鮮の 1 回目の MRBM ICBM の試験は相当順調であった。このことは、背後に、問題点の所在と回避する方法を知る相当経験豊富な設計グループが存在することを意味する。しかもコンピューターによる模擬試験は、相当高いレベルにある。これらは、北朝鮮が独力で、しかも短期間で達成できるものではない。

以上